

岳温泉の歴史

岳温泉の起源は、鉄山の高台にある湯日（ゆい）温泉という一群の温泉旅館にあります。

似た名前の温泉は、9 世紀にはすでに史料に登場しています。17 世紀までに、湯日温泉は

旅行者と地元の人々の両方を満足させる歓楽街として栄えました。

山を下る

しかし、1824 年に湯日温泉は大規模な土砂崩れで埋もれ、跡地は放棄されました。その 2

年後、二本松藩主は鉄山の麓、十文字岳と呼ばれる地域に新たな温泉街の建設を命じま

した。十文字岳には天然温泉がなかったため、6 キロメートル離れたもとの温泉からお湯を運

ぶために木製の導水路とパイプのシステムが建設されました。現在、岳温泉のお湯は当時と

全く同じ方法で配管されています。

1868 年、西日本の有力な藩が率いる連合軍が徳川幕府を打倒した戊辰戦争で、十文字

岳は焼け落ちました。1870 年に近くの深堀に新しい温泉街が建てられましたが、1903 年に

旅館の 1 つから延焼した火災で深堀温泉は全焼してしまいました。最終的に、1906 年に

現在の場所に温泉街が再建され、岳温泉と名付けられました。岳温泉の湯は、今でも 8 キロ

メートル離れた鉄山の同じ源泉から引かれています。

ニコニコ共和国

岳温泉の次の劇的な一手は目を引くものでした：1982年、この温泉街は独立国家「ニコニコ共和国」として樹立を宣言しました。（ニコニコとは明るい笑顔を指す日本語です）これは、岩手県の独立村を描いた1981年の井上ひさしによる風刺小説『吉里吉里人』に触発された、日本での冗談混じりのミニ独立国開国ブームの一環として成立しました。

岳温泉の場合、東北新幹線が新設されることへの懸念がこの宣言の発端となりました。二本松には新幹線の駅の開設が予定されておらず、多くの急行列車が新幹線に置き換えられるため、岳温泉の訪問者数は減少する可能性が高いと考えられました。独立宣言は、世間の人々に岳温泉を忘れ去られないようにすることが目的でした—そして、それは成功でした。ニコニコ共和国は全国ニュースで報道されたため、町のリーダーたちはこの冗談を継続しました。

観光協会事務所は「国会議事堂」と改称され、協会長が大統領に就任しました。岳温泉はパスポートと通貨「コスモ」（岳温泉の町の花「コスモス」にちなんでいる）を発行し、これらはそれぞれスタンプ割引カードと買い物券の役割を果たしました。当時の大統領が、ニコニコは日

本と再合併し、20年以上続いた「独立」に終止符を打つとやっと発表したのは2006年になってからのことでした。

岳温泉の長い歴史の中でも、温泉を守るという二本松の人々の決意は変わりません。自然災害から経済的なものまで、あらゆる課題に直面しながらも、彼らは温泉を将来の世代のために残し続ける方法を見つけました。